



日刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

94.9.20 No. 4064



9.18集会 熱い思いこめて 850名結集

闘う意欲 確信 沸き立つ

みんなの力で 新しい潮流をつくらう

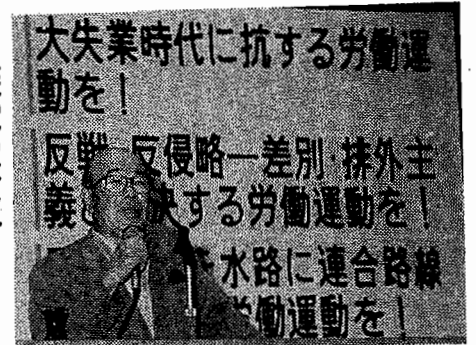
九・一八労働者は、八五〇名 いわず何事においても端緒を切
の仲間が東京都勤労福祉会館を り開くことは困難な事である。
うずめつくし、「戦争と大失業 その突破口を切り開いたので
の時代」と闘う新たな潮流をみん ある。全国にはばたこう一を合
な力で創りだすことを各々が い言葉に全国各地での集会、県
キツチリと心に刻むという、感 下七ヶ所の地区集会をやりきつ
動的な決起集会としてかちとら てきた成果がここに結実した。
れた。 この隊列をただちに打ち固め、
ついに闘う労働運動創造の端 さらに多くの仲間たちの中にう
緒は切り開かれた。労働運動と って出よう。

熱烈に 連帯 激励 寄せらる

司会を勤労水戸・辻川委員長 ーする熱弁である。その中で鈴
と東交・兼杉婦人部長が担当、 木達夫氏は「労働者は一人一人
来賓と激励には早稲田大学教授 では資本・当局の前に決して自
・佐藤昭夫氏、勤労千葉顧問弁 由でも平等ない。皆さんが勤労
護士・鈴木達夫氏、帝京大学・ 千葉に学び・連帯し、アジアの
降旗節雄氏、反戦自衛官・小西 民衆の叫びに応えよう。」と訴
誠氏、船橋市議・中江昌夫氏、 え、中江昌夫氏は、「混迷を打
がそれぞれの持ち時間をオーバ 開するために私自身初心に立ち
返り闘う」と決意が表明された。

岩井章草氏の「気迫」 全参加に喝・ブ。

司会が岩井章氏を紹介すると にわたって熱をこめ講演され、
会場から大きな拍手がおこる。 全参加者の闘う意欲と確信を沸
その中で岩井氏は、一時間余り き立てた。



(講演の要旨)

岩井章氏、18時間以内熱烈弁

13名加 闘いの報告

した。その中で「今日の帝国主
義の危機は、労働者にとつては
又とない好機。時代を変える心
意気で専らあたれば道もひらか
れる」と強調し、四つの課題を
提起し、最後に「連合をひっく
りかえすために、職場、地域か
らの反乱をつくりだそう。労働
者が政治、政党のことを今ほど
考えている時はない。これに応
えなければならぬ」と果たす
べき責務を鮮明にうちだした。
集会の最後は会場からの発言
出ある。
それぞれの現場で闘っている
十三名の代表が闘いの報告と教
訓、九・一八集会のオルグで得
た確信等々について述べられた
共通している点は「村山自社政
権の登場に、労働現場はすさま
じい怒り、不安がうずまいてい
る。新しい潮流を求めているこ
とが実感できた。」というもの
であり、「国鉄闘争を水路に闘う
ことがいかに有効かつかめた。
「交流センター」の拡大に未来が
かかっている」などなど発言者
の提起を食い入るように聞き、
メモをとっている参加者も多数
いた。

岩井氏の講演を受けて中野委
員長が「いかに闘い勝利するの
か」、路線と展望について提起